

## 株主の皆様へ



## 第61期 株主通信

2021年4月1日～2022年3月31日

### CONTENTS

社長インタビュー … P1

新中期経営計画 … P4

セグメント別概況 … P5

連結財務諸表 … P6

特集／あさひ工場操業開始 … P7

会社概要・株式情報 … P9



## 環境変化をチャンスと捉え、 チェンジ・チャレンジで 持続的成長をはかります

代表取締役社長 高松宗一郎



Q 第61期(2022年3月期)の振り返りをお願いします。

A 受注・売上・利益、  
全てを大きく改善することができました。

第61期を振り返りますと、依然としてコロナ禍が継続している中で、ウクライナ情勢の緊迫化、原油価格や物価の高騰などの問題が発生しつつも、経済情勢は総じて回復基調にありました。

工作機械業界においてはコロナ危機の落ち込みから力強く回復し、2021年度の受注総額は、2017年度、2018年度に続く3番目の受注額となりました。

当社グループでは、投資意欲が高まってきた自動車関係だけではなく、その他業種に対しても、リアルとデジタルの両面で積極的にソリューション提案営業を推進してきたことで、受注高は133億21百万円(前年同期比98.0%増)となり、大きく回復させることができました。この結果、連結売上高は167億20百万円(同24.5%増)となり、利益面も大きく改善しました。

また、当社の企業価値向上のために建設を進めておりました「あさひ工場」が無事竣工を迎え、2022年4月4日に操業を開始し

ました。これにより、更なる飛躍を目指した新たな一歩を踏み出すこととなります。

Q 新たにスタートした  
中期計画2024について教えてください。

A 環境変化をチャンスと捉え、  
企業価値の向上をはかっていきます。

新型コロナウイルスの流行は、ビジネスモデルや産業構造の変化を促しました。また、サステナビリティを巡る動きが活性化し、自動車業界ではEVシフトが加速しています。これらにとどまらず、当社グループを取り巻く環境は、急速に変化していくものと見込まれます。

このような環境の変化は、その先行きが見通せないものではありませんが、当社グループにとってピンチではなく、チャンスであると捉えています。そこで当社では、市場変化や環境変化に対応していくためのチェンジ・チャレンジを基本方針とした中期計画2024を策定しました。

中期計画2024では、当社が持続的に成長していくために、来るべき変化に備えた対応と既存事業の強化を取り組みの軸とし、5つの主要戦略を掲げました。

例えばその取り組みの一つとして、新たに「FAソリューション推進室」を営業本部に設置しました。工作機械ユーザに対し、自動化・省人化によるソリューションを提供するとともに、工作機械以外での「新しい仕事」を見出し、新たな分野へチャレンジするための調査を進めていきます。

その他、中期計画2024については、4ページ「新中期経営計画」にも取り上げておりますので、そちらもご覧ください。

## Q サステナビリティの方針について教えてください。

### A モノづくりを通じて、企業価値の向上と持続可能な社会の実現に貢献します。

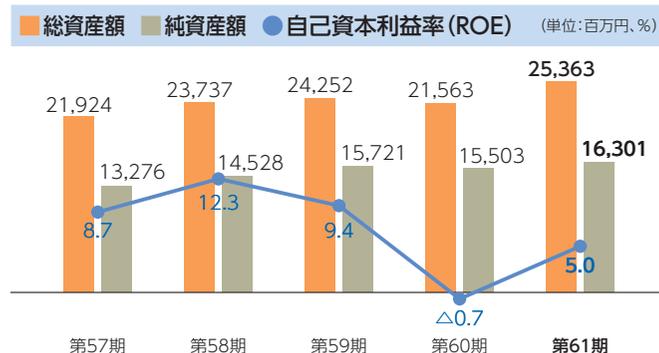
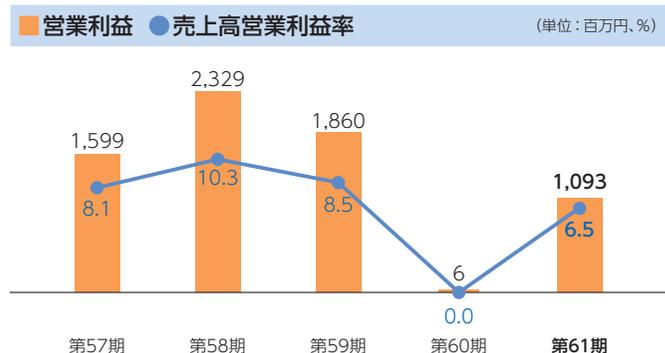
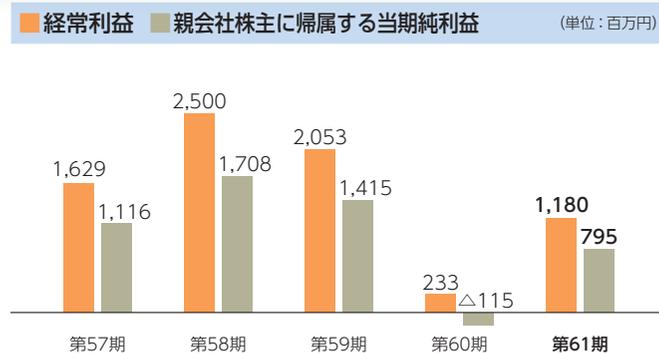
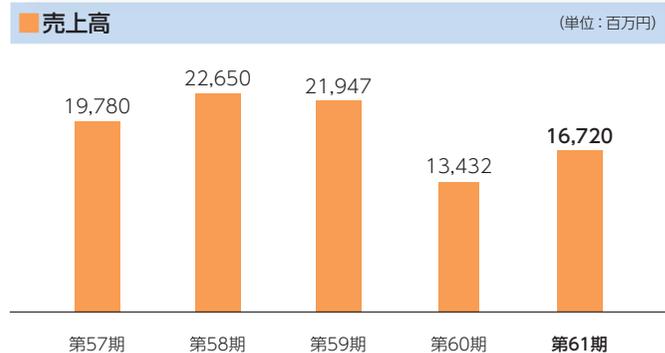
近年、SDGs、カーボンニュートラルなど、サステナビリティを巡る様々な社会課題が山積しており、企業にはこれら課題解決への

貢献が求められています。

そこで当社では、サステナビリティの実現に向けてどのように貢献していくかを改めて検討し、「TAKAMAZは、常に挑戦し続けるモノづくりを通じて、企業価値の向上と持続可能な社会の実現に貢献します。」をサステナビリティ基本方針として制定しました。サステナビリティを巡る課題に対しては、ESGが示す3つの観点(環境・社会・ガバナンス)から4つの重要課題を定め、解決に取り組んでいます。

これら取り組みが、当社経営理念「社会に貢献する」と同じゴールに向かっていると確信しています。これからたゆまぬ努力を重ね、サステナビリティの実現に貢献していきます。

当社は、サステナビリティを巡る取り組みの方針や活動実績を取りまとめ、当社HP上にて公開しておりますので、ご覧ください。



## Q 第62期(2023年3月期)の見通しを教えてください。

### A 積極的な「チェンジ」「チャレンジ」で変革し、 全社最適で骨太な経営基盤をつくります。

日本経済の先行きは、更なる回復が期待されるものの、新型コロナウイルス変異株の発生やウクライナ情勢、更には原材料価格の高騰や部品不足など、景気を下押しする可能性のある要因が数多くあります。

その一方で主力分野の工作機械業界では、幅広い業種で旺盛なニーズがあり、引き続き好調を維持するものと見込まれます。

そこで当社グループでは、第62期の連結業績予想を、売上高187億35百万円、営業利益9億38百万円、経常利益10億44百万円、親会社株主に帰属する当期純利益7億90百万円と計画しました。中期計画2024の初年度として、長期的視点での変革を考えていくとともに、あさひ工場の稼働に合わせて新たな成長に向けたリスタートを切り、積極的に「チェンジ」「チャレンジ」に取り組んでいきます。

工作機械事業では、全部門一体となって受注を確保し、最適生産を実施していくとともに、将来を見据えた新規開発や設備投資、人材育成を推進していきます。

また、完成したあさひ工場は、挑戦し、成長し続けるためのフラッ

#### 2023年3月期連結業績予想

**売上高** 187億35百万円 (前年同期比 12.0%増)

**営業利益** 9億38百万円 (前年同期比 14.3%減)

**経常利益** 10億44百万円 (前年同期比 11.5%減)

**親会社株主に帰属する  
当期純利益** 7億90百万円 (前年同期比 0.6%減)

グシップ・ファクトリーであります。当社グループの企業価値向上に寄与するよう、最大活用に向けて更なる生産体制の整備を進めていきます。

IT関連製造装置事業では、主要取引先を中心に安定受注をはかるとともに、新規受注獲得に注力し、自動車部品加工事業では、積極的な営業活動とともに、既存設備の効率的活用や新規設備投資により、売上高拡大をはかっていきます。

収益面においては、あさひ工場の建設に伴う減価償却費や人件費の増加に加え、原材料価格の高騰なども見込んでいますが、効率的な生産の実現や原価低減・抑制を進めるとともに、適正価格での販売に努めることで、より多くの利益確保をはかります。

## Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

第61期は、あさひ工場の建設に伴う資金を確保しつつも、安定的な配当水準を維持していくという配当方針のもと年間12円(中間5円、期末7円)を配当させていただきました。

第62期の配当につきましては、工作機械需要が回復し、当社グループの業績も改善すると見込むことから増配を予定していますが、あさひ工場を最大活用していくための生産能力拡大投資を引き続き行っていきます。そこで第62期は、3円増配した年間15円(中間6円、期末9円)の予定としました。

工作機械業界は、力強い回復を遂げ、引き続き好調を維持するものと見込まれます。一方で、中長期視点では、変革が求められている業界でもあります。当社グループは、中期計画2024にて「チェンジ」「チャレンジ」を掲げたように、持続的成長を志向し、将来の目指す姿に向けた取り組みにまい進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご指導を心よりお願い申し上げます。

# 中期計画2024

当社グループは、2022年度を初年度とする3カ年計画「中期計画2024」を策定しました。5つの主要戦略のもと、積極的なチェンジ・チャレンジで更なる成長を遂げ、過去最高の売上高達成をはかります。

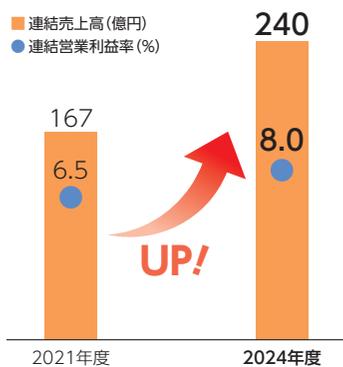
## 基本方針

**チェンジ！ チャレンジ！ 2024！ 当たり前を「変える」、新しいことに「挑戦する」**

## 主要戦略

|                 |  |
|-----------------|--|
| 加速する事業環境の変化への対応 | 会社が目指す未来の到達点の一つとして創業90周年(2038年)を想定し、変化・挑戦への取り組みを進めます                 |
| 工作機械事業の質的転換     | コア事業である工作機械事業において、従来と異なる取り組みや製品などによって、新しい価値を提供することで、市場開拓・シェア拡大をはかります |
| 収益構造の改善         | 設備投資、従業員、株主に対する適切な分配を行うための原資を稼ぐ力をつけるとともに、増員だけに頼らない生産性向上をはかります        |
| 経営基盤の強化         | 持続的に成長していくために、人材への投資を行うとともに、工作機械事業や新規事業の売上高拡大をはかります                  |
| サステナビリティの実現     | サステナビリティの基本方針と4つの重要課題をもとに持続可能な社会の実現に貢献します                            |

## 数値目標



2024年度 数値目標

連結営業利益率 **8.0%以上**

連結ROE **8.0%以上**

連結売上高 **240億円以上**

### POINT 1 変化への対応

当社は、自動車産業の構造変化や新しい生活様式の確立等、大変革の時代をチャンス捉え、挑戦・変化していくことを目的に、新しい組織である「FANソリューション推進室」および「未来プロジェクト」を立ち上げました。「FANソリューション推進室」では工作機械以外の新たな分野や、様々なFANソリューションに挑戦し、変化する需要にいち早く対応します。また、「未来プロジェクト」では、ベテランから若手の意見を幅広く取り入れながら、当社の未来を議論し、環境変化に即した柔軟な変化をはかります。

### POINT 2 サステナビリティへの対応

持続可能な社会の実現に向け、当社の方針と重要課題を設定しました。

基本方針 TAKAMAZは、常に挑戦し続けるモノづくりを通じて、企業価値の向上と持続可能な社会の実現に貢献します。

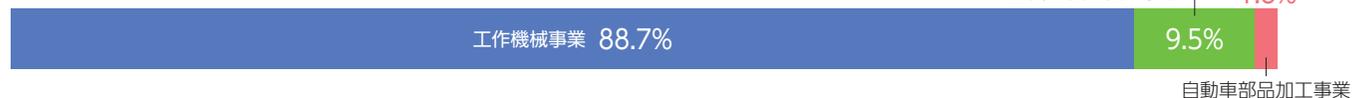
|     | 分類          | 重要課題                            | SDGsの達成   |
|-----|-------------|---------------------------------|---|
| ESG | ① 環境 (E)    | モノづくりを通じて地球環境の負荷を軽減します          | 7 気候変動、12 持続可能な消費と生産、13 気候変動、14 海洋資源の持続可能な利用  |
|     | ② 社会 (S)    | モノづくりを通じて社会に貢献します               | 1 平和と公正、2 質の高い雇用と経済成長、9 産業、革新とインフラ、11 持続可能な都市とコミュニティ、12 持続可能な消費と生産、16 平和と公正、17 パートナーシップ |
|     | ③ ガバナンス (G) | 社員と会社の持続的な成長を目指します 経営基盤を更に強化します | 3 健全な消費と生産、4 質の高い雇用と経済成長、5 性別平等、8 豊かになる経済、9 産業、革新とインフラ                                  |

HPで活動を詳細に紹介しています

<https://www.takamaz.co.jp/sustainability/>



## 第61期 売上高構成比



### 工作機械事業

売上高 **14,834**百万円  
(前年同期比 33.5%増)

営業利益 **990**百万円  
(前年同期は150百万円の営業損失)



営業面では、コロナ禍の行動制限により訪問ができていなかったお客様や新規取引先への訪問など、リアルな営業活動を強化したほか、当社HPや公式SNS(YouTube、Facebook、Instagram)を活用し、デジタルによるお客様との接点の強化にも努めました。

地域別の売上高は、国内向け、アジア向けおよびヨーロッパ向けが大きく増加した結果、内需が98億74百万円(前年同期比25.1%増)、外需が49億60百万円(同54.3%増)、外需比率が33.4%(前年同期は28.9%)となりました。

製品面では、市場ニーズ・ユーザーニーズに応える新製品開発や、IoT・AI等のデジタル技術を活用す

る研究開発の取り組みを推進してきました。

生産面では、仕入先との情報共有の強化、先行調達、代替品の活用などを実施し、安定生産に努めました。



### IT関連製造装置事業

売上高 **1,587**百万円  
(前年同期比 3.0%減)

営業利益 **130**百万円  
(前年同期比 28.7%減)

部品不足の影響を受けたものの、半導体関係において旺盛なリピート受注があったため、売上高は堅調に推移しました。

その一方で、製品構成比が変化したことおよび原材料価格が高騰してきたことが影響し、営業利益は減少しました。



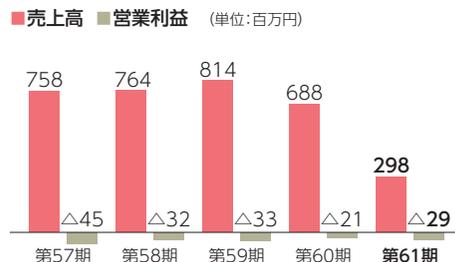
### 自動車部品加工事業

売上高 **298**百万円  
(前年同期比 56.7%減)

営業利益 **△29**百万円  
(前年同期は21百万円の営業損失)

自動車部品の需要回復により、年度当初の業績は回復基調にありましたが、第2四半期から年度末にかけて、半導体不足等による取引先の減産の影響が継続したため、生産高や利益を押し下げました。

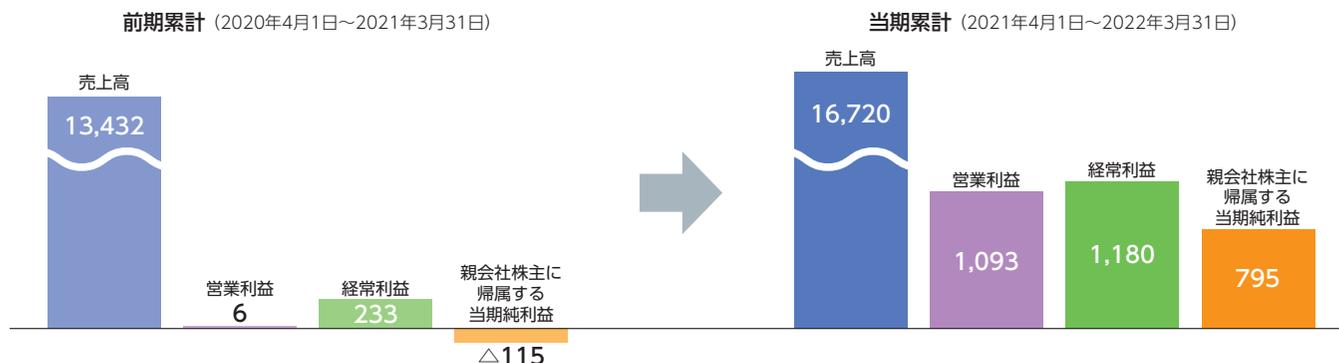
(注)第61期より、「収益認識会計基準」等を適用し、売上高が4億24百万円減少していますが、利益に対する影響はありません。



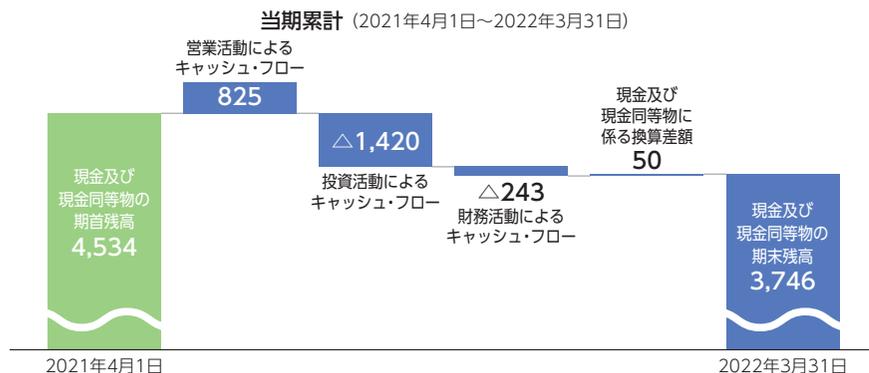
## 連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)



## 連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)



## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



### 財務情報のご案内

詳細な財務情報は、当社IRサイトより  
ご覧いただけます。



IR・投資家  
向け情報  
Click!



<https://www.takamaz.co.jp/ir/>

特集

# TAKAMAZのフラッグシップ・ファクトリー あさひ工場が操業開始

※フラッグシップ・ファクトリーとは：主要工場、旗艦工場

当社が、挑戦し成長し続けるためのフラッグシップ・ファクトリーである「あさひ工場」が2022年4月4日、ついに操業を開始しました。あさひ工場はSDGsを意識し、人にも環境にも優しい工場を目指します。



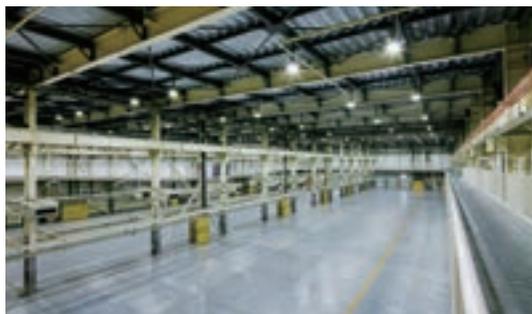
## 安全・安心設計で働きやすい 製造フロア



製造フロアは、歩行者通路を明確に区分し、働く社員にとって安心・安全な設計としました。温度・湿度を一定に保てる空調設備を備え付けることで、製品の品質を維持するとともに、社員にとっても働きやすい製造フロアとなっています。

また、2階から製造フロアを見渡せる見学デッキを作りました。お客様には安心・安全に工場見学していただけます。

工作機械生産スペースが拡大し、売上高300億円を目指す体制が整いました。



## 社員の健康と楽しみをつくる カフェテリア



カフェテリア「Orange Kitchen」は明るく広々とした空間で、通常のテーブル席だけでなく、ソファ席や窓際のカウンター席など、様々なパターンの席を用意しています。ミーティングスペースとしても使用することができ、働き方の多様性を実現します。

また、食事は「おいしい」「健康」「楽しい」が揃ったメニューが提供され、社員のモチベーションの向上と健康維持を推進します。



## 環境に配慮した設備



あさひ工場にはプレクール／プレヒートシステムを導入しました。これは通年で温度が安定している井戸水を空調に利用することにより、夏は予冷効果、冬は予熱効果が得られる省エネルギーシステムです。

このシステムにより年間約350MWhの省エネルギー効果が得られます。



## 積極的なITの活用

あさひ工場では積極的なITの活用を推進しています。本社との連携を強化するため、モニターの設置による「常設コミュニケーション環境」を構築しました。

また、エントランスでは110インチ相当の大型デジタルサイネージがお客様をお出迎えます。

### 大型デジタルサイネージで企業PR



### 常設コミュニケーション環境



## あさひ工場見学会のご案内

あさひ工場操業を記念して、株主様に当社のフラッグシップ・ファクトリーであるあさひ工場をご覧いただき、当社のモノづくりへの姿勢についてご理解を深めていただくことを目的に、工場見学会を開催します。

|             |   |
|-------------|---|
| <b>開催場所</b> | あさひ工場<br>石川県白山市旭丘4丁目13番地                                    |
| <b>対象者</b>  | 2022年3月31日現在で100株(1単元)以上保有する株主様                             |
| <b>募集人数</b> | 定員40名(1開催あたり20名×2開催)  |
| <b>日時</b>   | 2022年9月2日(金) 10時～11時30分<br>14時～15時30分                       |
| <b>応募方法</b> | 同封の応募はがきに必要事項をご記入の上、ご投函ください。<br>締切日 2022年7月22日(金)<br>当日消印有効 |

**集合・解散** いずれかをお選びください。

- ①あさひ工場
- ②JR金沢駅

※JR金沢駅⇄あさひ工場間の移動は当社で送迎いたします。

### (注意点)

- お申込みの際、記入漏れ等がある場合、無効とさせていただきますのでご了承ください。
- ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。
- 株主様お一人様につき、同伴者は一名様まで(小学生以上)とさせていただきます。
- コロナ感染状況、天候、諸般の事情により内容が変更、又は中止となる場合がございます。
- 参加費無料(ご自宅から集合・解散場所までの往復交通費は株主様のご負担とさせていただきます)



## 会社概要

|            |   |
|------------|---|
| 商号         | 高松機械工業株式会社  |
| 英文商号       | TAKAMATSU MACHINERY CO., LTD.   |
| 設立         | 1961年7月   |
| 資本金        | 18億3,539万円  |
| 本社         | 石川県白山市旭丘1丁目8番地  |
| 従業員数       | 533名  |
| 事業内容       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● CNC旋盤等の製造、販売およびサービス・メンテナンス</li> <li>● 部品、コレットチャック等の製造、販売</li> <li>● IT関連製造装置の製造</li> <li>● 自動車部品の加工</li> </ul> |
| ホームページアドレス | <a href="https://www.takamaz.co.jp">https://www.takamaz.co.jp</a>   |

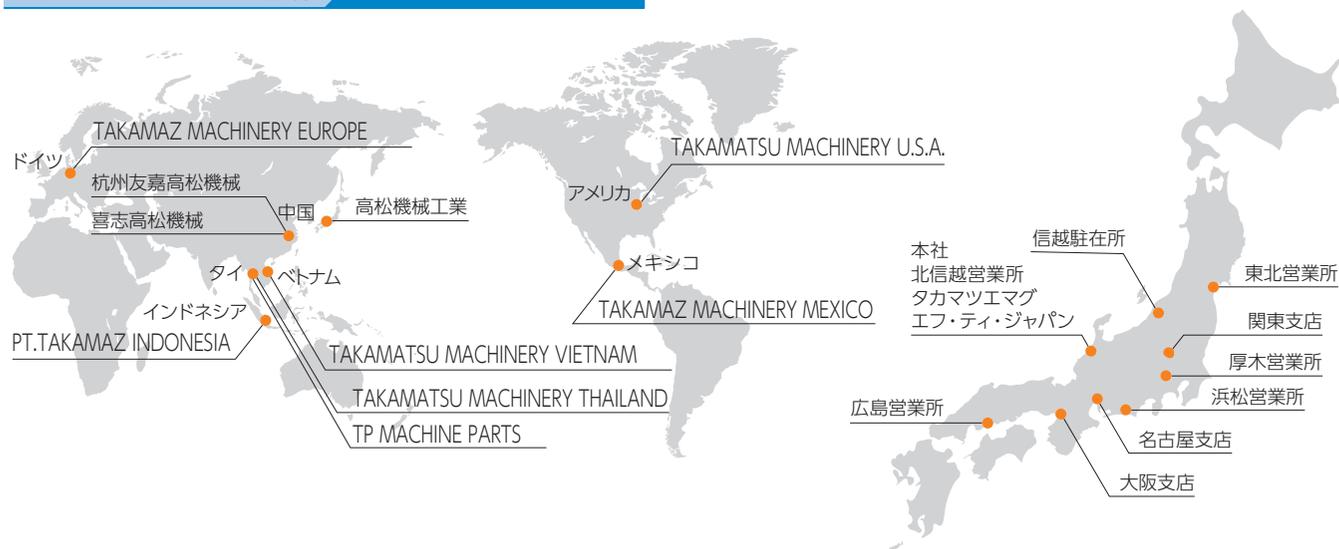
## 役員 (2022年6月28日現在)

|         |        |
|---------|--------|
| 代表取締役会長 | 高松喜与志  |
| 代表取締役社長 | 高松宗一郎  |
| 常務取締役   | 徳野 穰   |
| 常務取締役   | 磯部 稔   |
| 常務取締役   | 四十万 尚  |
| 取締役     | 村田 俊哉  |
| 取締役(社外) | 中西 祐一  |
| 取締役(社外) | 池元 ことみ |
| 取締役(社外) | 高田 英美  |
| 常勤監査役   | 成田 秀信  |
| 監査役(社外) | 杖村 修司  |
| 監査役(社外) | 高井 和男  |

## 執行役員 (2022年4月1日現在)

|        |       |
|--------|-------|
| 上席執行役員 | 唐木 英幹 |
| 上席執行役員 | 梅田 勝  |
| 執行役員   | 古屋 孝真 |
| 執行役員   | 山野 真  |

## ネットワークとサービス体制



## 株式の状況

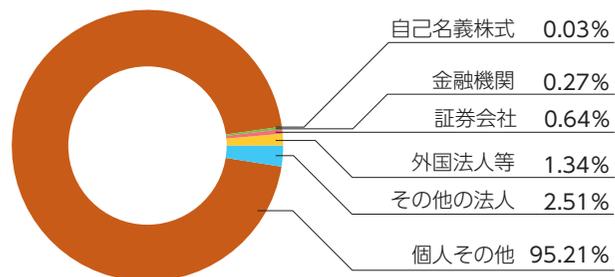
|          |              |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 30,000,000 株 |
| 発行済株式総数  | 11,020,000 株 |
| 1単元の株式数  | 100 株        |
| 株主数      | 2,983 名      |

## 大株主

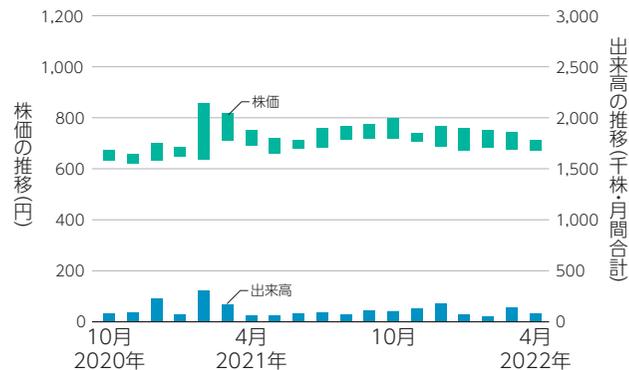
| 株主名                                    | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|--|---------|---------|
| 高松機械工業取引先持株会                           | 1,028   | 9.51    |
| 株式会社タカマツ                               | 810     | 7.49    |
| 北国総合リース株式会社                            | 433     | 4.01    |
| 株式会社北国銀行                               | 408     | 3.77    |
| 日本生命保険相互会社                             | 384     | 3.55    |
| 明治安田生命保険相互会社                           | 360     | 3.33    |
| 株式会社朝日電機製作所                            | 355     | 3.28    |
| BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND | 352     | 3.26    |
| 高松明毅                                   | 330     | 3.06    |
| 高松機械工業社員持株会                            | 314     | 2.91    |

(注)持株比率は自己株式(203,957株)を控除して計算しております。

## 所有者別株主数比率



## 株価・出来高の推移



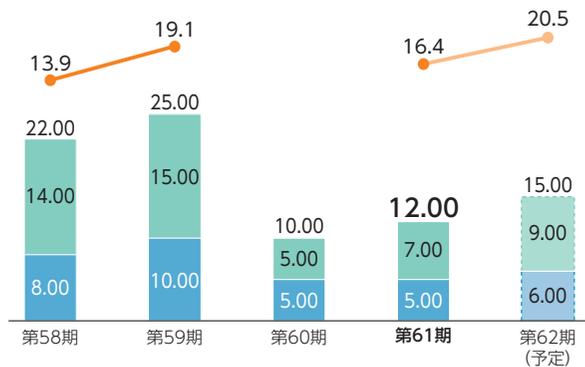
## ● 配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、安定的な配当水準を維持していく方針です。

また、将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資に充当するため、必要な内部留保を行っていきます。当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としています。

## ● 1株当たり配当額

■ 中間 ■ 期末 ● 配当性向 (単位：円、%)



※第60期においては、親会社株主に帰属する当期純利益がマイナスのため配当性向を表示していません。

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日

- (1) 定時株主総会 3月31日
- (2) 期末配当金 3月31日
- (3) 中間配当金 9月30日
- (4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務  
取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  
(インターネット  
ホームページURL) ☎0120-782-031  
<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

公告の方法 当社ホームページに掲載  
<https://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所スタンダード市場

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部  
TEL 076-274-1410(直通)  
FAX 076-274-1418

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

## アンケートご協力をお願い 〈単元株主の皆様へ〉

当社は、株主の皆様のお声を頂戴するため、アンケートを実施しています。同封したハガキに質問へのご回答をご記入の上、切手を貼らずにそのままご投函ください。



マークシートの当てはまる  
番号を鉛筆で塗りつぶし、  
ご回答ください。

### ハガキによるご回答

同封のハガキのアンケート回答欄にご記入の上、ご返送ください。

締め切り **2022年9月30日(金)** 当日消印有効



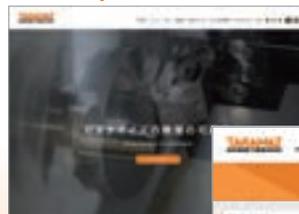
## ホームページのご案内

ホームページでは、様々な企業情報や展示会・イベント情報、IR情報をお届けしています。どうぞお気軽にアクセス、ご利用ください!



当社ウェブサイト「トップページ」

<https://www.takamaz.co.jp>



「サステナビリティページ」



**NEW!**